

柏井浄水場 高度処理施設の稼働遅れ4〜5年以上

柏井浄水場の地質調査で有害物質の硫化水素が検出された問題で、同浄水場西側施設内に予定していた高度浄水処理施設の建設が4〜5年以上遅れることが明らかになりました。

総合企画水道常任委員会において、柏井浄水場の埋設汚泥対策、高度浄水処理施設建設の遅延について質問をしました。

【ほんま進】
1.今後、硫化水素についてどのような調査を行っていくのか？

浄水課長から
汚泥の量や性状、硫化水素の生成状況などを把握するため、安全に配慮したうえで、汚泥埋立箇所をボーリングし、詳細な調査を行います。

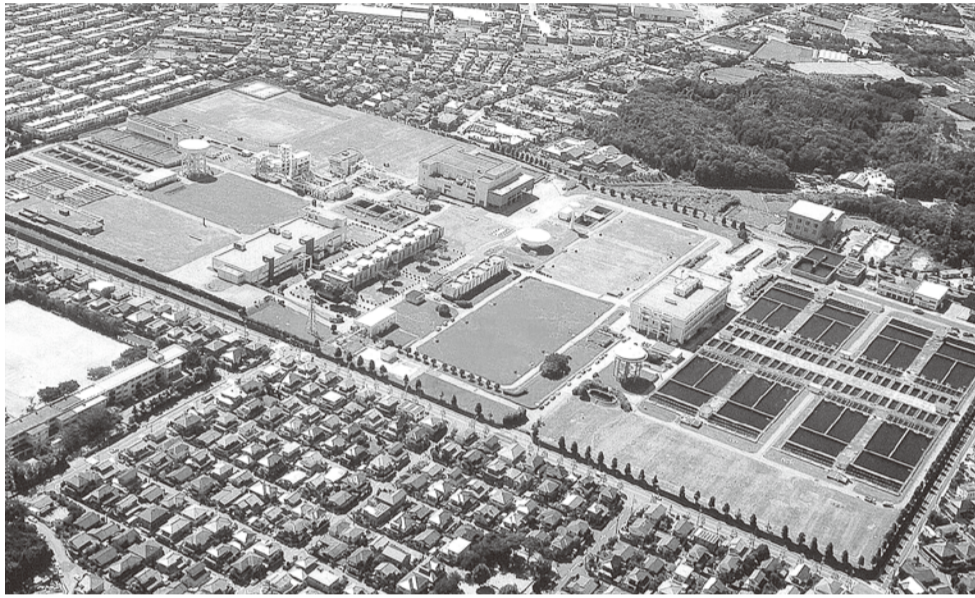
また、近隣への影響の可能性を配慮して、地下水についても調査を行いたいと考えております。

【ほんま進】
2.硫化水素対策についてこれから、どのように行っていくのか？

浄水課長から
硫化水素の対策には、発生原因を除去するため汚泥層内の滞留水を排水し内部循環を改善させる方法や、硫化水素を無害化させるため鉄剤等を散布するなど、複数の方法が考えられます。今後、詳細調査を行い、その結果をもとに、近隣住民への安全性を最優先として、対策方法を検討してまいります。

【ほんま進】
3.高度浄水処理施設の建設はどの程度遅延するのでしょうか？

浄水課長から
高度浄水処理施設の建設は、位置の変更が可能な現在検討しております。



柏井浄水場(千葉市花見川区)

建設時期については、位置の変更が難しい場合は埋設汚泥対策が終わった後に位置を変更する場合は、基本設計からやり直すことが必要となります。

埋設汚泥の詳細調査が終わるまで、確たることは申しあげられませんが、場合によっては4〜5年、場合によってはそれ以上遅れることとなります。

【ほんま進】
本誌第8号でも取り上げた内容である、柏井浄水場の放射性セシウムについて、質問をしました。

また、放射性の物質を含んだ汚泥が残っているのか、仮置き場は今どうなっているのか？

浄水課長から
3月31日現在で、978

1トンです。本年度は最終処分場も決まっておりますので、すでに運搬しております今年度にはすべてなくなる予定となっております。

【ほんま進】
放射性セシウムの数値は減っているのかどうか。前回北総浄水場が498となっていたが、今一番新しい数値を教えてください。

浄水課長から
柏井浄水場東側施設338ベクレル、柏井浄水場西側施設121ベクレル、北総浄水場146ベクレル、ちば野菊の里浄水場422ベクレルで、6月12日現在の測定結果であります。

いづれもセメント原料等の再利用の可能なレベルになっております。

【ほんま進】
前回より多くなっているところがあるが、放射性セシウムが安定しているのか、浄水課長から

利根川から取水している柏井浄水場西側施設と北総浄水場については、減少傾向にあります。

印旛沼から取水している柏井浄水場東側施設については、印旛沼の水の流れがないことによりセシウムが底に溜まっているのではないかと考えられます。

川は減少しておりますが、ちば野菊の里浄水場について、雨が降ったせいもあり上流から下流に流れてきたのではないかと考えられます。

IR導入にむけて、積極的な情報収集とすぐ動けるネットワークが必要。

総合企画水道常任委員会において、IRについて質問をしました。

【ほんま進】
IRについて、誘致を希望している市町村と連携して、導入に向けた検討を行うべきと考えているが、県において、市町村の動きをどのように把握しているのか？

政策企画課長から
IR導入に関する県内の動向ですが、把握しているところでは、まず、千葉市において、市の議員連盟が市に要望書を提出しているほか、幕張地区の経営者を中心とした「幕張新都心MICE・IR推進を考える会」が県及び市に要望書を提出しています。

次に、成田市においては、地元の経済、商工関係団体による「IR誘致推進協議会」が、市にIR検討の要望書を提出しています。

また、木更津市においては、地元の商工会議所が、市に要望書を提出しています。

一方で、これを受けたそれ以外の市や市民レベルでは、特段動きは見受けられない状況です。

いずれにしても、IRを導入するに際しては、地元の意向を見極めながら市町村と連携しつつ対応していきたいと考えています。

【ほんま進】
代表質問での答弁では、専門家からのヒアリングなどをもとに意見交換等を行い、法案成立後、適切に対応できるよう準備を進めているとのことだが、専門家とはどのような方なのか。また、専門家からどのような話を聞いているのか？

政策企画課長から
専門家からのヒアリングについては、情報収集のほか、IRを整備・運営する、いわゆるオペレーターといわれる海外の事業者や、国内のIR導入に向けてIRの開発・運営を研究している国内の民間事業者に対しヒアリングを行いました。

その中で、IRの導入に当たっての規模や交通アクセスの条件、オペレーターの選定に当たっての留意点など、また、東アジアをはじめとする海外の状況や、他県の検討状況等に関する専門的見地から、また、事業者としての立場から意見を伺ったところです。

【ほんま進】
IR導入に向けて、具体的にどのような準備を進めているのか？

政策企画課長から
現段階では、IRを推進する法案が固まっておらず、政府による具体的な整備の仕組みづくりもこれからといった状況です。

県としては、まず、国や県内外の情報収集に努め、IRの規模や整備する数、治安や青少年への影響をどのように排除するかといった、具体的な内容が明らかになった際には適切に対応できるように、必要な検討

を行いたいと考えています。【ほんま進】要望を進めるにあたっては、非常に重要だが、気がついていたら他の自治体より出遅れてしまったということのないよう、待ちの姿勢ではなく、積極的に情報収集を行うとともに、何かあったらすぐ動けるようなネットワークが必要。

また、市町村もしっかりと話し合いをしていただきたい。

平成25年度千葉県特別会計上水道事業会計補正予算 繰上償還の効果大 24億9千7百万円軽減が図れる

総合企画水道常任委員会において、質問をしました。

【ほんま進】
企業債の繰上償還を実施するということだが、どのような効果があるのか？

財務課長から
繰上償還の効果としては、9月に償還を予定していることから、本年度下期分で2億7400万円、来年度以降分も含め、総額で24億9700万円の支払利息の軽減が図れることとなります。

【ほんま進】
高金利の企業債はどのくらい残っているのか？

財務課長から
今回、繰上償還の対象となつた年利4%以上の企業債は、平成24年度末で202億8900万円、今年度の繰上償還により、今年度末には、74億7300万円、残高全体の4.4%となります。

【ほんま進】
繰上償還は、大変効果が大きい。今後、こうしたことを含め、健全な財務運営に頑張ってもらいたい。

また、老朽化した施設も多いようなので、そうした施設の更新など、投資すべきところには、しっかりと投資するよう、併せて要望する。

【ほんま進】
最後に、今回の6月定例県議会は上程議案が39件提出され、可決議案34件、承認1件、同意が4件で、7月2日に閉会しました。

得た額に相当する額を減じるといふことになりました。

議員報酬一割減。賛成多数で可決。

6月定例県議会において、発議案第1号、議員に対する臨時特別報酬及び期末手当の臨時特別に関する条例の制定について、賛成多数で可決されました。

平成25年7月1日から平成26年3月31日までの期間、議員報酬の支給に当たっては、議員報酬の月額から当該額に百分の十を乗じて